

## 平成 19 年度食品安全モニター会議について

## 1 開催趣旨

平成 19 年度食品安全モニター会議は、モニターの方々に、食品安全委員会の取組や食品健康影響評価の実態などについて、知識や理解を深めていただくとともに意見交換を行うことを目的に開催した。

## 2 開催状況

平成 19 年 5 月から 6 月にかけて、全国 7 都市において計 10 回開催し、合計 346 名の食品安全モニターが参加した。

## 3 会議概要

会議は、大きく 3 部構成で行い、第 1 部では、事務局から食品の安全性と信頼性確保及び食品安全モニターの活動について説明を行い、続く第 2 部では、食品安全委員会委員からリスク評価の考え方と実際について説明を行った。第 3 部では、新たな内容として、18 年度から継続して活動いただいている数名のモニターの方から、食の安全の確保に向けた地域における取組について発表していただいた。その上でこれらをもとに、食品安全委員会委員等とモニターとの間で意見交換を行った。

また、会議には、厚生労働省、農林水産省の担当者も出席し、リスク管理施策等幅広い観点からの意見交換に参加したところである。

なお、今後の会議等の運営に当たっての参考とするために会議終了後にアンケート調査を行った。その結果は、別紙 2 のとおり。

開催日 開催場所	モニター出席者		出席委員	説明委員
	対象地域	人数		
5 月 21 日（金） 東京都（東京 1）	東京都、山梨県、長野県	46 人	見上委員長、各委員	見上 彪 委員長
5 月 22 日（火） 東京都（東京 2）	埼玉県、千葉県、新潟県	39 人	見上委員長、各委員	小泉 直子 委員
5 月 23 日（水） 東京都（東京 3）	茨城県、栃木県、群馬県、 神奈川県	42 人	見上委員長、各委員	本間 清一 委員
6 月 12 日（火） 岡山市	鳥取県、島根県、岡山県、 広島県、山口県、徳島県、 香川県、愛媛県、高知県	37 人	畑江 敬子 委員	畑江 敬子 委員
6 月 13 日（水） 福岡市	福岡県、佐賀県、長崎県、 熊本県、大分県、宮崎県、 鹿児島県、沖縄県	45 人	小泉 直子 委員	小泉 直子 委員
6 月 19 日（火） 名古屋市	岐阜県、静岡県、愛知県、 三重県	33 人	廣瀬 雅雄 委員	廣瀬 雅雄 委員
6 月 20 日（水） 大阪市（大阪 1）	大阪府、兵庫県、（福井県 他大阪 2 の府県）	32 人	廣瀬 雅雄 委員	廣瀬 雅雄 委員
6 月 20 日（水） 大阪市（大阪 2）	富山県、石川県、滋賀県、 京都府、奈良県、和歌山 県、（大阪府）	28 人	野村 一正 委員	野村 一正 委員
6 月 26 日（火） 札幌市	北海道	15 人	見上 彪 委員長	見上 彪 委員長
6 月 27 日（水） 仙台市	青森県、岩手県、宮城県、 秋田県、山形県、福島県	29 人	長尾 拓 委員	長尾 拓 委員

## < 食品安全モニターからの主な意見等 >

意見交換の際のモニターからの主な意見等は、以下のとおり。

### 1) 食品安全一般に関する意見等（評価案件関連以外のもの）

#### < 食品安全委員会活動・全般関係 >

- ・食品安全委員会については、メディアによるフードファディズムなどに臆することなく、逆にメディアを利用し、強力な情報発信をするなど、広く消費者に情報提供できるような仕組みをつくり、より活発な正しい知識の普及を図っていただきたい。
- ・食品安全委員会はリスク管理機関ではないとのことだが、他の行政機関に相談してすべて解決するものではない。むしろ行政機関にアドバイスをしてもらいたい。
- ・食品安全委員会の情報は難解な内容が多い。普通の生活者が理解できるよう、一般的な常識と科学的知見に基づいたものとの違いがどのようなものなのかを分かりやすく解説する方にも力を入れて欲しい。
- ・リスク評価と管理は別だと言われても、一般的にはよく分からない。食品安全委員会の位置付けも分かりにくい。食品安全委員会は安全か否かを判断するのみの機関であるというように聴こえてしまう。食品に関してどの機関が対応するのが分かるような形で明示してもらいたい。
- ・今後は、食品の安全性に対する考え方について、教育現場で普及させていくことも重要である。学校を対象として食品安全委員会も講演などをしていただけると有難い。
- ・食品安全委員会で作成したパワーポイントのスライド資料をホームページ等で公開し、自由に使わせてもらうことはできないか。
- ・食品安全委員会のウェブサイトの情報検索システムができたことは評価する。この4年間で、少しずつ、食品安全委員会も進歩していると感じる。

#### < 食品安全委員会活動・広報、リスクコミュニケーション関係 >

- ・季刊誌「食品安全」はカラー印刷で分かりやすく、私の周囲でも評判が良い。
- ・季刊誌は、食の安全に興味がない人でもとても読みやすくなっていると思う。
- ・季刊誌について、誰にでもわかるもの 少し詳しく より詳しく・・・という具合に、3層程度の階層構造にしては如何か。
- ・メールマガジンや、季刊誌のキッズボックスコーナーなどは、小学校や教育委員会にも配布しては如何か。ノロウイルスなどの予防にも繋がるのではないだろうか。キッズボックスコーナー程度のレベルのものを配布できれば良いのではないかと思う。
- ・食品衛生指導員をしていると年に1回講習会があり、食品安全委員会からの情報は、そこで配布される資料と重複する部分もあるが、詳しい内容を知ることができて大変良い。食品衛生指導員は保健所単位で、かなりの数にのぼる。食品衛生協会と連携できれば会員にも配布され、情報の浸透が早くなるのではないか。
- ・食品安全委員会のホームページは、より入っていきやすいように、簡単な説明から詳しい説明へと重層構造になっていると良いと思う。

- ・以前にメチル水銀のDVDソフトについて、「大学の講義で使って良いか」と、事務局に訊ねたところ、良いと言われたので使わせていただいた。中に入っていた葉書のアンケート内容をアレンジして学生からアンケートを取った。学生としては、普段メチル水銀については馴染みがないと思われるが将来関係するかもしれないことから、リスクがあることを理解してもらえれば良いと考えた。パンフレット等は配っても読まないが、DVDソフトは理解しやすいので大変良いと思う。農薬や遺伝子組換え食品についてもDVDソフトで紹介するつもりである。
- ・DVDソフトをホームページで動画や音声を配信し、ダウンロードできるようにしていただけると、より多くの人に見てもらえ、お薦めもしやすい。
- ・一般の方にリスクに対する危機感をもってもらいたいと考えているが、一人でのモニター活動としては限界がある。地域の指導者育成講座やリスクコミュニケーター養成講座を受講したことを資格化し、人を集めて話しをすれば、より効果があるのではないかと。また、育成講座とリスクコミュニケーター養成講座の違いが分かりにくい。
- ・指導者育成講座の公募枠を広げ、モニターがもっと参加できるようにしてもらいたい。このような講座の中で、行政機関との関係づくりもできる。
- ・食品安全モニターのアンケートの結果にもあったように、人々はメディアの影響を受ける。メディア戦略を考えるべきではないか。今後は食の安全性に対する考え方について、教育現場で普及させていくことも重要である。学校を対象として食品安全委員会も講演などをしていただけるとありがたい。
- ・用語集を使用するが、説明が足りないと感じる。もう少し分かりやすく解説して欲しい。言葉だけではなく、パワーポイントの資料作成に生かせるような情報にしていきたい。
- ・食品安全委員会は文部科学省とは連絡を取り合っているのか。また、意見募集をする際の文言が専門的過ぎるのではないかと。子ども向けリスクミを推進することでリスクミの文化が根付いていくのではないかと考える。
- ・サイエンスカフェ方式を取り入れ、テーブルコーディネーターを置いてはどうか。

#### <その他>

- ・食中毒の扱いが軽く見られていると感じる。とりわけ、カンピロバクターは鶏肉から検出され、食中毒の原因物質としては、ノロウイルスに次いで二番目である。保健所でもデータを取りまとめているので、是非活用して欲しい。現場に密着したデータを汲み上げてもらいたい。
- ・海外で認められている放射線照射された香辛料が日本国内に輸入されていると思うが、国内でも安全性の評価が行われているか。また放射線照射された香辛料に対するリスクミを食品安全委員会では行っているのか。
- ・ミネラルウォーターと水道水の問題。水道水については、わざわざ水を購入するという現代、はっきり安全といってもらいたい。外国産のミネラルウォーターについては、ほぼフリーで輸入されていると聞いたことがある。輸入される商品について厳しく対応して欲しい。
- ・トランス脂肪酸は「見えない油」と言われているのでとても不安である。朝はパン食で、マーガリンを塗っているためかなりの量のトランス脂肪酸を摂取しているのではないかと不安だ。今後、表示等の規制の予定はあるのか。

- ・国民栄養調査の平均では、日本人のトランス脂肪酸の摂取量は少ないとのイメージを持つが、年代によって相当摂取量が異なると思われる。自分では毎日のトランス脂肪酸の摂取量を調べる手立てがない。自分で管理する方法を教えて欲しい。
- ・国産の食品は安全だと思うが、中国産の食品について残留農薬や使用されている農薬の種類について不安に思っている。
- ・最近の特定保健用食品のCMなどは、行き過ぎではないかと感じる。また広告に多額の費用を投ずるなどメディアにとっては、「おいしい報道」とも言え、このような風潮に疑問を感じる。モニターとしては、メディアの情報を色々興味を持って、さらに批判的な視点を持って見ること、公的機関でも担当するものがちがうので、どのことをどこにきけばいいのかを考えて調べるのが大切である。講演の中にあった「リスクを知り、妥当な判断するためには努力が必要」という言葉は、その通りだと思う。このことが食品安全に繋がると考える。

## 2) 評価案件関連に関する意見

### 【BSE】

- ・スタンニングにより、食肉中にSRMが混入する可能性はないのか。SRMが混入しない確実な方法があれば、それを実施すべきである。
- ・BSEの感染原因として代用乳を挙げた報告もあるが、日本では調査されているのか。
- ・肉骨粉がBSEの原因だと言う。米国も、BSEが発生していない豪州が行っているように牛を飼養したらよいのではないか。そうすれば、BSEがなくなると思う。米国でBSEの発生がなくなってから、輸入を再開すれば良いのではないか。
- ・米国、カナダ以外の国の牛の安全性についてはどのように調査しているのか。オーストラリアからの牛の輸入量が増加しているが安全なのか。
- ・vCJDは得体が知れず、気持ちが悪いが、発症者は全世界で約200名という人数。BSE問題は、SRMの除去も徹底しているので、すでに片が付いた問題ではないのか。
- ・BSE検査については、多額の費用がかかると聞いている。逆に、牛肉、豚肉などが、意図的に混入されている肉に関する分析はあまり費用がかからないと聞いた。輸入業者には厳しくても、国内の業者に甘いようでは安心できない。

### 【メチル水銀】

- ・新聞で評価のことを見たときは、魚介類について、危ないのでは？と不安を持った。キンメダイを食べてはいけないと思った人が多かったのではないかと。妊婦の食生活に何か具体的な変化はあったか。
- ・μグラムという記述であるが、魚一切れの具体的な数字が知りたい。
- ・身近なリスクと比較して説明すると科学的なリスクもわかりやすい。例えば、妊婦へ、アルコールとメチル水銀のリスクを比較して説明してはどうか。
- ・日本人の魚介類摂食量では、それほど心配する必要はないのではないかと。
- ・消費者にマグロを食べても大丈夫かと聞かれた場合どのように説明すればよいのか。

- ・日本人の毛髪ヒ素濃度は0.1～0.5ppmであるが、ある発展途上国で計測したところ、毛髪から高濃度のヒ素が検出された。水銀やヒ素・ダイオキシンは、野菜を多く摂ることによって、リスクが緩和されるのか。

#### 【農薬、ポジティブリスト制度】

- ・農薬のリスク評価が、様々な毒性試験をもとにされていることがよくわかった。このように食品に残留する農薬等の化学物質についての評価と、医薬品の安全性評価とはどのように違うのか。
- ・農薬のリスク評価で、環境への影響を考慮しないのか。
- ・農薬と肥料との組み合わせの相乗作用はあるか。また、その点について試験しているか。
- ・農薬の評価に使用する標準的な土壌とは何か。
- ・将来、動物愛護の関係で、動物実験は難しくなるのではないかと危惧している。今後はどのような対応になるのだろうか。
- ・農薬について各国で登録等共通にすることはできないか。
- ・ポジティブリスト制を取っている農薬というのは、畜産、漁業、園芸に使われているもの全てを含むのか。

#### 【大豆イソフラボン】

- ・大豆イソフラボンの評価をしたが、大豆は日本人の基幹食品であるのだから、そんな問題はないと自分は思っているが、マスコミなどが騒ぎすぎている。きちんと報道するように働きかけるべきである。そもそも、大豆イソフラボンの何がいけないのか。安全性の評価をするということになった、きっかけは何なのか。特保は人体実験もしているのだから、特保として認めているのであれば、安全性が高いはずだと考える。
- ・大豆を沢山取る事をポジティブに捉えていたと思うのだが、その認識は変わっていないと思って良いのだろうか。
- ・ダイエット関連で豆乳ブームや豆腐ダイエット等も盛んであるが、これは、日常的な摂取と捉えてよいか。

## アンケート調査結果

	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	第9回	第10回	合計
開催地	東京1	東京2	東京3	岡山	福岡	名古屋	大阪1	大阪2	札幌	仙台	-
開催日	H19.5.21	H19.5.22	H19.5.23	H19.6.12	H19.6.13	H19.6.19	H19.6.20	H19.6.20	H19.6.26	H19.6.27	-
対象地域	東京都、山梨県、長野県	埼玉県、千葉県、新潟県	茨城県、栃木県、群馬県、神奈川県	中国5県、四国4県	九州8県	岐阜県、静岡県、愛知県、三重県	大阪府、兵庫県	富山県、石川県、福井県、滋賀県、京都府、奈良県、和歌山県	北海道	東北6県	-
参加者数（人）	46	39	42	37	45	33	32	28	15	29	346
回収数（人）	46	39	42	35	41	33	30	28	15	28	337
回収率	100.0%	100.0%	100.0%	94.6%	91.1%	100.0%	93.8%	100.0%	100.0%	96.6%	97.4%

### 問1 参加者の構成

	東京1	東京2	東京3	岡山	福岡	名古屋	大阪1	大阪2	札幌	仙台	全体
食品関係業務経験者	30.4%	43.6%	54.8%	42.9%	39.0%	36.4%	23.3%	21.4%	33.3%	28.6%	36.5%
食品関係研究職経験者	17.4%	10.3%	4.8%	5.7%	12.2%	6.1%	10.0%	7.1%	6.7%	7.1%	9.2%
医療・教育職経験者	13.0%	15.4%	4.8%	17.1%	7.3%	18.2%	23.3%	35.7%	26.7%	21.4%	16.6%
その他消費者一般	32.6%	28.2%	28.6%	31.4%	29.3%	36.4%	36.7%	32.1%	20.0%	42.9%	32.0%
無回答	6.5%	2.6%	7.1%	2.9%	12.2%	3.0%	6.7%	3.6%	13.3%	0.0%	5.6%

### 問2 モニター継続区分

	東京1	東京2	東京3	岡山	福岡	名古屋	大阪1	大阪2	札幌	仙台	全体
継続モニター	56.5%	61.5%	69.0%	71.4%	61.0%	48.5%	56.7%	64.3%	53.3%	60.7%	60.8%
新規モニター	43.5%	38.5%	31.0%	28.6%	36.6%	48.5%	40.0%	35.7%	46.7%	39.3%	38.3%
無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.4%	3.0%	3.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.9%

### 問3 満足度合

	東京1	東京2	東京3	岡山	福岡	名古屋	大阪1	大阪2	札幌	仙台	全体
満足	13.0%	33.3%	16.7%	11.4%	19.5%	15.2%	26.7%	28.6%	26.7%	14.3%	19.9%
だいたい満足	56.5%	43.6%	57.1%	82.9%	58.5%	48.5%	66.7%	39.3%	60.0%	57.1%	57.0%
どちらでもない	6.5%	12.8%	11.9%	0.0%	4.9%	15.2%	3.3%	7.1%	6.7%	7.1%	7.7%
やや不満	2.2%	2.6%	2.4%	0.0%	2.4%	3.0%	0.0%	3.6%	0.0%	3.6%	2.1%
不満	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
無回答	21.7%	7.7%	11.9%	5.7%	14.6%	18.2%	3.3%	21.4%	6.7%	17.9%	13.4%

第一部の事務局からの説明について

問 4 理解度合

	東京1	東京2	東京3	岡山	福岡	名古屋	大阪1	大阪2	札幌	仙台	全体
理解できた	52.2%	61.5%	35.7%	28.6%	58.5%	42.4%	66.7%	50.0%	40.0%	46.4%	48.7%
だいたい理解できた	45.7%	35.9%	64.3%	65.7%	36.6%	54.5%	33.3%	46.4%	60.0%	46.4%	48.4%
あまり理解できなかった	2.2%	2.6%	0.0%	5.7%	4.9%	3.0%	0.0%	3.6%	0.0%	3.6%	2.7%
理解できなかった	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	3.6%	0.3%

問 5 参考度合

	東京1	東京2	東京3	岡山	福岡	名古屋	大阪1	大阪2	札幌	仙台	全体
非常に参考になった	17.4%	35.9%	35.7%	25.7%	36.6%	21.2%	46.7%	50.0%	33.3%	46.4%	33.8%
ある程度参考になった	71.7%	59.0%	61.9%	68.6%	58.5%	75.8%	50.0%	46.4%	66.7%	46.4%	61.1%
あまり参考にならなかった	10.9%	2.6%	2.4%	2.9%	0.0%	3.0%	0.0%	3.6%	0.0%	7.1%	3.6%
全く参考にならなかった	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
無回答	0.0%	2.6%	0.0%	2.9%	4.9%	0.0%	3.3%	0.0%	0.0%	0.0%	1.5%

問 6 内容がわかりにくかった点（問 4 で「あまり理解できなかった」、「理解できなかった」と回答した方のみ）（人）

	東京1	東京2	東京3	岡山	福岡	名古屋	大阪1	大阪2	札幌	仙台	全体
説明に専門用語が多かった	1	0	0	0	2	1	0	0	0	0	4
資料がわかりにくかった	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	2
聞き取りにくかった	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
適切な説明時間が確保されていなかった	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
その他	0	1	0	0	1	0	0	0	0	1	3

問 7 参考にならなかった点（問 5 で「あまり参考にならなかった」、「全く参考にならなかった」と回答した方のみ）（人）

	東京1	東京2	東京3	岡山	福岡	名古屋	大阪1	大阪2	札幌	仙台	全体
すでに知っている内容がほとんどだったから	4	1	0	1	0	0	0	0	0	1	7
内容が理解できなかったから	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	2
その他	0	0	0	0	1	0	0	1	0	1	3

第二部の「食品健康影響評価等の実際」について

問 8 理解度合

	東京1	東京2	東京3	岡山	福岡	名古屋	大阪1	大阪2	札幌	仙台	全体
個別テーマ	B S E	メチル水銀	リスク評価実	BSE/大豆/ワカメ	メチル水銀	残留農薬	残留農薬	リスコミ	B S E	添加物	—
理解できた	34.8%	46.2%	28.6%	34.3%	36.6%	30.3%	63.3%	46.4%	40.0%	53.6%	40.4%
だいたい理解できた	60.9%	38.5%	59.5%	60.0%	48.8%	48.5%	30.0%	46.4%	60.0%	39.3%	49.6%
あまり理解できなかった	4.3%	12.8%	9.5%	5.7%	4.9%	18.2%	3.3%	3.6%	0.0%	7.1%	7.4%
理解できなかった	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.4%	3.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.6%
無回答	0.0%	2.6%	2.4%	0.0%	7.3%	0.0%	3.3%	3.6%	0.0%	0.0%	2.1%

問 9 参考度合

	東京1	東京2	東京3	岡山	福岡	名古屋	大阪1	大阪2	札幌	仙台	全体
非常に参考になった	32.6%	46.2%	33.3%	20.0%	43.9%	21.2%	43.3%	39.3%	53.3%	32.1%	35.6%
ある程度参考になった	65.2%	43.6%	61.9%	74.3%	46.3%	63.6%	50.0%	50.0%	46.7%	53.6%	56.4%
あまり参考にならなかった	0.0%	5.1%	2.4%	2.9%	4.9%	15.2%	3.3%	7.1%	0.0%	14.3%	5.3%
全く参考にならなかった	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
無回答	2.2%	5.1%	2.4%	2.9%	4.9%	0.0%	3.3%	3.6%	0.0%	0.0%	2.7%

問 10 内容がわかりにくかった点（問 8 で「あまり理解できなかった」、「理解できなかった」と回答した方のみ）（人）

	東京1	東京2	東京3	岡山	福岡	名古屋	大阪1	大阪2	札幌	仙台	全体
説明に専門用語が多かった	1	5	0	0	2	7	1	1	0	0	17
資料がわかりにくかった	0	0	2	0	3	2	0	0	0	0	7
聞き取りにくかった	1	0	2	1	0	1	0	0	0	1	6
適切な説明時間が確保されていなかった	0	0	1	2	1	0	0	0	0	0	4
その他	0	0	0	0	0	4	0	0	0	2	6
無回答	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

問 11 参考にならなかった点（問 9 で「あまり参考にならなかった」、「全く参考にならなかった」と回答した方のみ）（人）

	東京1	東京2	東京3	岡山	福岡	名古屋	大阪1	大阪2	札幌	仙台	全体
すでに知っている内容がほとんどだったから	0	1	0	0	0	3	1	0	0	2	7
内容が理解できなかったから	0	0	0	1	1	2	0	1	0	0	5
その他	0	1	0	0	1	3	0	1	0	2	8



第三部のモニターからの活動報告と意見交換について

問 1 2 参考度合

	東京1	東京2	東京3	岡山	福岡	名古屋	大阪1	大阪2	札幌	仙台	全体
非常に参考になった	30.4%	33.3%	31.0%	22.9%	29.3%	24.2%	40.0%	39.3%	26.7%	25.0%	30.3%
ある程度参考になった	56.5%	48.7%	52.4%	45.7%	48.8%	54.5%	50.0%	46.4%	66.7%	53.6%	51.6%
あまり参考にならなかった	6.5%	2.6%	4.8%	20.0%	9.8%	12.1%	3.3%	10.7%	6.7%	7.1%	8.3%
全く参考にならなかった	0.0%	2.6%	0.0%	0.0%	2.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	3.6%	0.9%
無回答	6.5%	12.8%	11.9%	11.4%	9.8%	9.1%	6.7%	3.6%	0.0%	10.7%	8.9%

問 1 3 意見交換に充てられた時間

	東京1	東京2	東京3	岡山	福岡	名古屋	大阪1	大阪2	札幌	仙台	全体
もっと短くてもよかった	0.0%	2.6%	2.4%	11.4%	7.3%	3.0%	10.0%	0.0%	6.7%	7.1%	4.7%
適当であった	52.2%	46.2%	54.8%	48.6%	41.5%	72.7%	60.0%	53.6%	60.0%	35.7%	51.9%
もっと時間が欲しかった	41.3%	30.8%	28.6%	28.6%	39.0%	12.1%	13.3%	32.1%	13.3%	42.9%	29.7%
無回答	6.5%	20.5%	14.3%	11.4%	12.2%	12.1%	16.7%	14.3%	20.0%	14.3%	13.6%

## 問 1 4 会議全体についての感想や御意見など

### 会議の運営に関する感想や御意見

#### 【会議全般】

全般的に、「大変参考になった」、「有意義であった」などの感想が多かった。一方、講演については、「身近な事例をまじえながら時宜を得た事象を取り上げて欲しい」、「『国民との橋渡し役』を期待するならば、モニター自身が理解し、周囲伝達できるよう、いま少し平易な言葉で説明していただきたい」という要望もあった。

会議の進行に関しては、「円滑であった」という意見がある一方、講演については、「内容を盛り込みすぎで時間が足りない」、意見交換では「発言し易い雰囲気作りを心掛けて欲しい」との意見もあった。

会議の在り方については、「大変有意義であるので、このような機会を増やして欲しい」という意見や、会議内容の更なる充実を図る観点から「講演資料の事前配布」や「意見・質問の事前聴取」の提案があった。

#### 【意見交換と会議時間】

全体的には、「活発な意見交換が行われ、様々な考えや意見を聞いて参考になった」、「充実していた」という評価や、18年度からの継続モニターの活動発表（各会場3名程度）を受け、「モニター活動のイメージが掴めた」、「モニター活動への意欲が高まった」との感想が多数見受けられた。

一方、「意見交換や質疑応答の時間が短い」との意見もあり、一部で会議本来の主旨に沿わない発言をするモニターや質問時間の長いモニターに対する批判もみられた。そのため、事務局に対し、「可能な限り参加者全員が発言できるように、発言者の絞込みや発言時間の割振りを考慮すべき」との指摘もあった。

そのほか、モニター間の交流の場の設営を望む意見があった。

### 説明内容等に対する主な感想・御意見等（会議運営以外）

#### 【東京1】

- ・ 第1部の「食品の安全性と信頼性確保」については基礎的な説明を、また「我が国におけるBSEに関するリスク評価について」については具体的に詳細な説明を聴くことができませんでした。大変分かりやすく勉強になりました。説明の内容を自分が教えている栄養士養成学校の学生にも伝えたいと考えています。
- ・ モニターの活動として、発表者のように中心的な存在になれる方と、そこまでは活動できない人がいると思う。食品安全委員会から資料をいただくと一つの切り口となるのではと思う。例えば季刊誌のキッズボックスコーナーを掲示物として作成し、希望者に配布していただくと、学校や児童館などとコンタクトができて活動がしやすいと思った。居住地の近いモニター同士何人かで活動する方法はどうでしょうか。
- ・ 会議に出席したが、モニターとしての役割を十分に理解することができなかった。
- ・ 第2部のBSE問題については、常日頃から気になっていた内容（米国・カナダ以外の牛についての安全性など）が解明でき、また消費者として生活している中での口コミやメディアからの情報の誤りを身をもって感じた。
- ・ 食品安全モニターの役割や活動についてより理解することで、今後の対応を考える機会となって良かったと思う。
- ・

### 【東京 2】

- ・ モニターとして2年目になり、昨年は緊張して会議に参加したが、今回は落ち着いて説明を聴くことができました。また、昨年の会議でお会いした千葉県内在住のモニターの方とも再会できて、お互い交流を深めることができそうです。
- ・ 第2部のメチル水銀に関する説明は大変勉強になりました。説明が上手で引き込まれました。ただ、少し専門用語が難しいと感じました。
- ・ 食品安全委員会が配信しているメールマガジンを、各市町村の教育委員会あてにも配信しては如何でしょうか。学校の朝の会、帰りの会で担任や校長からリスクや予防法について話して頂ければより効果的だと思います。
- ・ 食品安全委員会が発足してまだ数年ということもあり、まだ手探り状態であると感じました。計画して行動に移し、成熟するまでには10年は要すると思っています。
- ・ 季刊誌、リーフレット等の配布先や対象者の選定も重要だが、読者からの意見を聴取し、内容の改善を図っていかないとマンネリ化してしまうのではないかと危惧される。季刊誌等は一般消費者が目にする場所に置くべきだ。
- ・ リスクはゼロか100という事ではないと頭では分かっているがなかなか理解、判断するのは難しいと実感しています。
- ・ モニターの発言の中にも、科学的根拠に基づいていない食への不安に関する発言がみられた。まずモニター自身に情報を正確に理解してもらうことが大事であると思う。
- ・ 会議の内容は大変興味深かった。初めて参加してみて食品安全委員が真摯に対応する姿勢に好感を持った。食品安全委員会が食品の安全性の信頼を築く本丸であると考えてるので、今後とも市民の視点で信頼を確保し続けて欲しい。

### 【東京 3】

- ・ 19年度よりモニターになり、今回モニター会議に出席し、食の安全に関する知識とモニターとしての今後の活動について大変参考になりました。私は学校給食での食育について深く関心を持っており、これから勉強していきたいと考えています。
- ・ 自分の勉強不足かもしれないが、質疑応答の中で委員等の言葉や言い回しで理解できない部分があった。他のモニター方の中にもそのようにおっしゃっていた方が何人かいらしたので、いまいち噛み砕いた応答をしていただきたかった。
- ・ 食の安全は生産者、農水、厚労の努力によって得ることが出来ますが、「安心」については食品安全委員会を中心とするリスクコミュニケーションによって生まれてくるものだと思います。モニター及びマスコミの協力によって国民に「食の安心」を与えてくれるよう、期待します。
- ・ 今後の食品安全委員会に期待することや課題などを話し合う必要があると思われますが、これに対しての意見が少なかったことが残念です。
- ・ 今年継続でモニターをさせていただくことになったので、改めてモニター活動の説明を受けるために出席しました。些細な疑問などは「食の安全ダイヤル」に、日常生活の中で感じた食品安全に関する事象は報告書にまとめて提出するなどし、もっと積極的に参加したいと思いました。

### 【岡山】

- ・ 食品安全委員会からのメッセージは少々難しく固いイメージなので、インパクトはないかもしれないが、地道に活動することで国民の信頼を得ることができるのではないかと思います。
- ・ 地域でのリスクコミュニケーションの機会を増やして欲しい。
- ・

- ・ モニター報告を書くのは中々大変で、余り提出をしていません。800字書くのは厳しいので、400字程度にしていきたい。
- ・ 「食品の安全性に関する用語集」は、モニター活動にあたり大変役立っています。
- ・ 食品安全委員会、厚生労働省、農林水産省の役割区分が明確ではないと感じる。モニター会議に出席し、更にそのように思うようになりました。自分の意見をどの機関に提示すれば良いのか考えてしまいます。
- ・ 私の出来ることは地域の方に食品安全委員会の存在を伝えることでしょうか？まずは身近な人に対し、できることから始めていきたいと思いました。
- ・ BSE問題については、一般消費者は、心配はしているけれども国の施策に頼るしかないので、正しい見極めをして欲しいと思います。
- ・ トランス脂肪酸のことが気になっていたので、納得できて良かった。
- ・ 参加されたモニターの方々が積極的に質問をされるので驚きました。モニターとしての意見や消費者としての意見・質問など、まだ混在した状態だが、意見交換を重ねるうちに皆の意識が高まり、正しい知識を理解した上で地域への情報提供をしていけたら良いと思いました。
- ・ 様々な意見があり参考になりました。リスク評価については難しい事をわかりやすく伝えていただけたと思います。リスクコミュニケーションの在り方については、今後改善の必要もあると感じましたが、様々な案（指導者の育成や場の設け方、相手方によった伝達方法等）が挙がっていたので活かしていきたいと思いました。

#### 【福岡】

- ・ 水俣病について神経質になっており、「有機水銀」、「蓄積等」、「排泄」について正しく理解することができた。地域の活動で正しく話をしたい。
- ・ 食品安全委員会の役割や取組がよく理解できました。モニターの一員として、これから勉強し、協力させていただきたいと思っています。まずは毎日の生活の中で、食の安全について、足もとから考えていきたいです。今回このような機会を得ることができたことを感謝しています。
- ・ 継続モニターに年数制限を設けず、地域との橋渡しの役目を継続させていただきたい。
- ・ 昨年度からの継続ですが、会議には初めて参加しました。会議の内容は大変有意義で勉強になりました。私には、2才と4才の子どもがおりますが、大勢の子供のいるお母さん方にこの会議に出席して説明を聴いて欲しいと切に思いました。子ども連れでも参加できる会議や講演会があればなお良いと思います。
- ・ モニター報告書の内容について、可能な限り具体的に（内容が良し悪しではなく、主旨に沿っているかどうかなど）説明していただきかった。

#### 【名古屋】

- ・ モニターの内訳をみると一般消費者が多いので、今後モニター会議の内容を考慮した方が良いのではないかな。
- ・ 多くのモニターの方から率直な意見を聴くことができ、良かったと思います。
- ・ 一般的な知識や教育機関での授業内容、専門家レベルでの危惧されているポイントについて、自分の中では大変大きな差があると感じました。今後の活動を通じて、最低限の知識項目とその後の段階的な知識のレベルアップの方法を勉強・研究し、モニター活動につなげて行きたいと思います。
- ・ 意見交換の時間をもっと取って欲しい。皆の意見を伺いたかった。
- ・ 初めての参加で、モニターの活動内容はよく理解できなかったが、食品安全委員会がどのような意図でモニターを募ったのかは、よく分かりました。

- ・ 今年度から食品安全モニターになったので、どのような意見を出せば良いのかなど、全体的に分からなかったが、会議に出席し、モニター活動について理解することができました。これから、食品の安全性についての意見をどんどん出していきたいと考えています。
- ・ 講演内容は相変わらず難解であった。もっと身近な事例を示しながら、分かりやすくしたら良いのではないかと。そして時宜を得た題材を取り上げて欲しいと思います。

#### 【大阪１】

- ・ ひと言で「食」といっても、様々な立場の方が様々な視点で会議に参加されていることが分かり、非常に興味深かった。モニターを依頼されて２年目ですが、そういった意味でも第３部の継続モニターからの地域における活動状況の発表と意見交換が加わったことは有意義であった。
- ・ 消費者の立場から、食品添加物や農薬＝危険という思い込みがあったが、「食品の安全性と信頼性確保」の説明を聴き、自然界には危険性があるものが多く存在するが、我々人類が長い歴史の中でそのリスクを極力減らす努力をし、現在我々が食している物があるのだということに改めて認識しました。とても有意義な会議でした。
- ・ モニターの方々は、既に様々な活動をされ、勉強されていると思います。以前の講演会や会議で類似の内容を聴かれている場合も多くあるはずなので、講演や説明の聴講は選択制にして、その間はモニター同士の情報交換やコミュニケーションを行うというような形式はいかがでしょうか。遠方から来られている方々と知り合える良い機会になるとと思います。
- ・ 残留農薬の安全性確保の取組については、非常に興味がありますが、本日の説明内容は初めて聴く言葉も多く、内容を理解するのが難しかったです。消費者レベルで、現在市場に出回っている物が全て安心して食べられる安全な物なのか、輸入食品についての管理等も国内産と同等に徹底されているのかなども知りたいです。
- ・ 第２部の内容を聴き、評価予定の農薬数が多いことに驚きました。農薬は使用による残留の影響以外に耐性などの影響も考えられるので、評価後も数年間、何年後にどのような影響がでるかを再評価した方が良いと思いました。
- ・ 第３部の内容は、自分が最も知りたかった情報でした。一般の主婦である自分には何ができるのかを考え、行動していきたいと思いました。
- ・ 食品安全委員会の取組についてより理解が深まった。

#### 【大阪２】

- ・ モニターの方々から様々な意見を拝聴しましたが、モニターの中でも食品業界の方々が、この会議の場を借りて発言されている気がしてなりません。モニター会議で「意見交換会」をやっている感じで妙な内容の話が展開していると思いました。また特定の方々ばかりの発言で聴きづらい一面もみられ、事務局に対し一考をお願いしたいと存じます。
- ・ 議事進行を滞りなく進めることに主眼が置かれていて、議論を深めることがなかったように思う。
- ・ 今年度で２年目になりますが、昨年度の会議では第３部の「継続モニターからの地域における活動状況の発表」がなかったため、他のモニターの具体的な活動内容が分からなかった。今回は貴重な意見を聞くことができ、自分も少しでも周りの人々に食品の安全性等について情報を広めていこうと思った。是非、今後とも続けて欲しい。
- ・ 地域で仕事をしていて、一般の方々、特に主婦の考えと専門機関の考え方には、随分差があるように思います。これを埋める役割を担えれば良いと思います。

- ・ 説明者が使用していた１９９０年の「暮らしの手帳」のデータは古すぎます。１７年も前のデータではなく、新しいデータをとるなどして説明された方が良いのではないのでしょうか。又、外国との比較ができれば、更に良いと思います。
- ・ 鳥インフルエンザについての質疑応答は、身近な問題でもあり、両省からの説明を聴くことができ大変良かった。
- ・ 食品安全行政における最近の課題についての説明が聴きたかった。

#### 【札幌】

- ・ 随時報告について、例を挙げて説明していただきかった。
- ・ 「健康食品影響評価等の実際」については、時宜を得た話題について取り上げてもらいたかった。また、リスクコミュニケーターの育成に期待します。
- ・ 会議に参加して、更に知識を深めることができました。また、モニターの方の普段の取組もとても参考になりました。ただ、昨年も参加しており、委員からの説明内容が同じテーマであったので、他のことについても聴きたかったです。

#### 【仙台】

- ・ 今年度よりモニターになったので、どのように活動していいのかなど、わからない点があったが、実際に継続モニターの方の地域における活動内容の発表を聴いて、今後の活動に役立てようと思った。毎週金曜日に配信されているメールマガジンの他に、今回説明のあった厚生労働省や農林水産省のホームページ等も見ようと思った。
- ・ 予算や人員もあると思うが、厚生労働省と農林水産省が横のつながりを持ち、広報誌・冊子等の配布物や講演会等で、モニターの依頼を受けた自分達のように食品の安全性について関心を持つ人達以外の無関心に近い人達を、食の安全に対して関心を寄せ、よく考えていただけるような領域にまで、どうか引き上げていただきたい。
- ・ モニター会議に参加すると毎度モニターの役割についての意見が出され、潜在的エネルギーをもっていることは評価できるが、個人として各自がやれる範囲内で実践することだと思う。限界をわきまえて良い。個人的には、様々な工夫をこらし、活動していきたいと考えている。
- ・ モニター独りでの活動は中々難しいが、自分としてはできるところからやっている。個々の活動ではインパクトが弱く、説得力にも欠けてしまう。岩手ではモニター同士、連絡先を交換し合った。
- ・ 国民はどうしても農薬＝怖い・危険と思っているので、農薬は必要な場合もあるし、適切に使用していれば安全であるということを発信していただきたいと思います。
- ・ 食品添加物を複数摂取した場合のリスクについて情報を提供して欲しかった。ホームページ上でも構わないので、今後分かりやすいデータなどを提示していただきたい。またその際、消費者はなぜ不安なのか、それに対して食品安全委員会の立場でどのように説明するのかをお示しいただくことが望ましいと思う。